



2015

子ども祭り



2015.11.17(火)

プログラム

- はじめの会 (9:10~ 9:30)
- 朗読劇『てんぐと かっぱと かみなりどん』
低学年 (9:30~ 9:50)
- 音 読『えげんさん』(伊深の民話より)
中学年 (9:50~10:00)
- ふれあいタイム (10:10~10:50)
*自己紹介等 *作って遊ぼう *感想交流
- 音楽劇『ピカドンたけやぶ』
高学年(11:00~11:30)
- 終わりの会 (11:30~11:50)

「ようこそ 伊深小子ども祭りへ」

校長 石田靖彦

本日は、早朝より伊深小学校にお越しいただきありがとうございます。皆様方におかれましては、それぞれのお立場で子どもたちのためにご支援を賜り、誠にありがとうございます。

さて、今日子ども祭りでは、日頃お世話になっている感謝の気持ちを伝えようと準備をして参りました。伊深小では、昨年度より、美濃加茂市FROM—0歳プランの補助金を活用して『表現力を高める活動』を行っています。「本物」にふれることにより、より質の高い表現をめざそうと、劇団うりんこの創設者のいのご福代さんを指導者にお迎えし、年間10余回のワークショップを行いました。そして、その成果を、1・2年は『てんぐとかっぱとかみなりどん』の朗読劇にまとめました。3・4年は、伊深の民話を音読し、表現の仕方をいのご先生に学びました。さらに5・6年は、作曲家の藤村記一郎さんをお迎えし、朗読と音楽とをコラボさせて、音楽劇『ピカドンたけやぶ』に集結しました。これらで大切にしたのは相手意識、つまり、人と人との「つながり」そして「ひろがり」です。

聴き手にいかに自分の考えや思いを伝えるのか、本気で取り組んで参りました。一生懸命皆様に語りかけ、演じます。がんばる子どもたちの姿をご覧ください。

また、6年生児童を中心に、ふれあいタイムを企画しました。一緒に楽しんでいただければ幸いです。

それでは、どうぞ最後まで、ゆっくりとお過ごしください。

いのこ福代さんの紹介

劇団うりんこの創設者の一人で、33年間の長きにわたり、劇団の中心俳優として活躍。退団後は演出、朗読などの多彩な文化活動で、幅広く活躍されるとともに、東日本大震災被災地支援のボランティア活動に進んで参加。「音つむぎネット」に参加し、何度も東北（福島県、宮城県、岩手県）の地を訪れ、朗読を通じて復興支援の活動を精力的に展開してみえます。

また、「私たちは東北を忘れない」をテーマとした『結コンサート』を開催し、復興支援の活動を続けてみえます。最近では先月10日の名古屋市東山スカイタワーでの公演に引き続き、10月24日には、ついに念願の伊深小での公演も実現し、いまだ感動冷めやらぬところです。

名古屋市文化振興事業団の主催事業では、朗読はもとより、構成や演出をされたり、“読み聞かせがうまくなる魔法、教えます”と題した講座を担当されたりしてみえます。その他にも講演や子ども向けのワークショップ等、そのご活躍ぶりは挙げれば枚挙にいとまがありません。「万葉の女たち～防人歌」「古事記～神話の中の女たち」と題したモダンバレエの福田純子さんとのジョイントリサイタルも開催されました。

この秋には音楽舞踊劇「熱田の社の昔がたり」の公演に中心的中にかかわられたり、12月には自ら企画・制作の総監督の任を務められ、「目夜の桜」の3公演をされることになっています。

昨年、東海三県の優れた演劇人をたたえる第18回松原英治・若尾正也記念演劇賞を受賞されています。

伊深小学校には、昨年2月から、伊深っ子の表現力を高めるための講師としてお迎えしたご縁で、昨年度・今年度とそれぞれ10余回にわたるワークショップで、伊深っ子の朗読劇に磨きをかけていただきました。毎回のワークショップでは、低学年の児童も、いのこさんの熱心な指導に思わず引き込まれ、2時間の間、休憩なしで練習していました。また、子どもたちへのご指導と併せ、伊深朗読サークルや教員の、熱い要望により、朗読指導も熱心にしてくださいました。

子どもたちは、毎回の指導を心待ちにしています。いのこさんが来訪されると、子どもたちはいつも笑顔で先生を取り囲み、いのこ先生は、伊深小の人気者です。

劇団うりんこの中心となってみえた、聴き手の心に訴える素敵な朗読には、子どもも大人も魅了され、またたく間に、とりこになってしまう魔法の力があります。



はじめ

山内 一さんの紹介

県内各地の高校で演劇を指導され、現在は県立加茂高等学校で非常勤講師（演劇）を務めてみえます。美濃加茂市では、みのかも文化の森で毎年開催されている早稲田大学・美濃加茂市文化交流事業学生演劇公演において、ワークショップの指導や照明・音響のサポートもしてみえます。今回は、校長がかつて勤務していた中学校で指導していた吹奏楽部の定期演奏会で、照明のスタッフとしてサポートしていただいていたご縁で、お世話になることになりました。今日のステージのために、先週金曜日の夜から4日間かけて機材を仕込んでくださいました。



藤村記一郎さんの紹介

高校の数学教師として活躍され、2005年3月で、教員を退職。念願のプロの音楽家としての道を歩み始められました。小学生から趣味で作曲をはじめ、18歳のとき、「NHKあなたのメロディ」年間最優秀作品コンサートに「海のゆりかご」で出演。以来数多くの曲を創作され、全国の合唱団や劇団などから作曲依頼を受けてみえます。現在、作曲活動のほか、指導、講演、うたの出前、プロデュース、うたごえ喫茶など幅広い音楽活動を展開してみえます。「愛知子どもの幸せと平和を願う合唱団」の指揮者のほか、「名古屋青年合唱団」「親と子のみどりの杜合唱団」「豊川親子合唱団たけのこ」などの作曲者・指揮者・音楽アドバイザーとして、日々忙しく活動してみえます。また、客演指揮者として北海道から沖縄県まで全国各地で活躍中です。



代表作は、「数学ソング」、合唱構成「そうれっしゃがやってきた」、「生まれてきてよかった」(国際障害者年の”障害児・障害者を励ます歌”公募入選曲)、合唱劇「ピカドンたけやぶ」、合唱組曲「ちいちゃんのかげおくり」、合唱組曲「とべないホテル」、「みんな・みんな・みんな」(被爆50年テーマソング入賞曲)、合唱組曲「そうのつばさで」、飯田線開通のための測量と工事に力を尽くしたアイヌの合唱劇「カネト」など。

藤村先生が指揮者を務めていらっしゃる前述の「愛知子どもの幸せと平和を願う合唱団」は、現在、幼児～高校生、専門学校生、大学生、教師、保育士、学童指導員、看護師、主婦、障害者、会社員などが団員で、年齢、経験に関係なく、大人と子どもが一緒になって楽しくうたを歌いたい、うたを通じて子どもの幸せを考えたいという気持ちを持った人が参加をしているユニークな合唱団です。

この週末の22日(日)には、名古屋市笠寺のガイシホールで、『2015 日本のうたごえ祭典 in 愛知』が開催され、『そうれっしゃ 5000人合同合唱』の指揮者を務められます。この音楽会には、全国各地の合唱団が参加するため、事前指導に全国各地へ赴いての指導というタイトなスケジュールの合間を縫って、伊深小へ、この2学期よりお越しいただき、作曲者ご自身により音楽劇「ピカドンたけやぶ」をご指導いただいています。

なお、今回は、「いのこ先生の朗読」×「藤村先生の音楽」のコラボが実現し、朗読劇の部分と音楽劇の部分が混在した音楽劇となっていますが、藤村先生の手によるナレーション部分も含めて全てに伴奏や旋律が付いた音楽劇の作品もあり、全国各地で演奏されています。

低学年 朗読劇『てんぐと かっぱと かみなりどん』

作者のかこさとしさんは、あとがきの中で『この本を読んで下さる方が、もし、いわれのない不当な苦しさを強いられ、辛さの底に落とされた時、どうするか、どう考え、行動しなければならないかを、この本で、このシリーズの中で問いかけたいと思って書きました』と書いてらっしゃいます。人間社会の中には、いじめや不当なことがたくさん存在します。そこから『逃げる』ことも大事な選択肢の一つであることは間違いありませんが、そこに立ち向かい突破していくという選択肢もあります。物語の中から少しでもそんなテーマを感じ取って演ずることができればと思います。

お稽古が進んで、台本を覚えてからは、「大きな声」「出番を待っている間も演技を見守る」「視線はお客様の方へ」を意識して取り組んできました。観ていただく皆さんに元気が届けられるように頑張ります。

中学年 合唱『咲かせよう笑顔の花を』

3・4年生は、先週開催された美濃加茂市小学校音楽会に出場し、その際に歌って発表した曲です。伊深小で大切にしている「あいさつ」をテーマに、大谷よしみさんに作詞を、宮川彬良さんに作曲をしていただいた、伊深小学校オリジナルの合唱曲です。日頃、地域の方とあいさつを交わしながら、人と人とのつながりを深めている伊深小にぴったりの素敵な曲です。

作詞をしてくださった大谷よしみさんからのメッセージに「あいさつには3つの魔法があり、一つ目の魔法は、花が咲くこと、しかも笑顔の花！二つ目の魔法は、虹がかかること、しかも心と心をつなぐ虹！三つ目の魔法は、思いやりが育つこと」とあります。この三つの魔法のことを想い、心を込めて歌います。

『私たちは、見えるものではなく、見えないものにこそ目を留めます。見えるものは一時的であり、見えないものはいつまでも続くからです。』

中学年 音読『えげんさん』（伊深の民話より）

伊深町にはいくつもの民話が語り継がれています。そんな民話を、地域の渡辺寛さんが「伊深の昔話」として本にしてくださっています。

「えげんさん」は、無相大師・関山慧玄（かんざんえげん）のことで、南北朝時代の高僧で、美濃伊深の地での修行を経て、花園法皇の命により妙心寺の開山となりました。伊深での修行中、村の人達に仏の教えを説いたり相談に乗ったりされました。また百姓の手伝いにも出かけ、伊深のために尽くしてくださいました。伊深の子たちはそんな「えげんさん」を身近に思い、毎年運動会では「えげん坊おどり」を披露します。また、伊深小の校歌の歌詞の中には、この「無相大師」が出てきます。大きくなって、この伊深の地や人々を大切にしていきたい、そんな思いを込めて音読します。

高学年 音楽劇『ピカドンたけやぶ』

広島県の爆心地から北東に約2・5キロ。住宅街の中に青々と茂った竹やぶがあります。中に防空壕があります。広島に原爆が投下された時、多くの人々が避難しました。その実話を基にした「はらみちをさん」による絵本「ピカドンたけやぶ」。1983年の出版後、ドラマやミュージカルになりました。今でも「ピカドンたけやぶ合唱祭」が毎年開かれ、竹やぶを守る会もあります。戦後70年という節目となる年を迎え、命の大切さと平和への祈りに向き合える作品をと、この作品を演ずることにしました。

昨年から、いのこ先生のご指導のもと、聴き手に伝えることを意識して、朗読に取り組んできました。いのこ先生は、あえて「朗読」と呼ばず、「読み語り」とおっしゃいました。そこには、強く、聴き手を意識した営みが存在します。

また、今回初めての取り組みとして、音楽劇に挑戦しました。最初は不安いっぱいスタートでしたが、藤村先生に教えていただくうちに、歌だけでなく、場面ごとの歌い方もよく分かるようになってきました。

戦争を体験していない自分たちが、戦争の苦しみや悲しみを理解して、伝えられるように、地域の渡辺寛さんを招きして、戦争体験についてお話をお聴きしました。

今日のステージでは、少しでも多く、演ずる側の気持ちが、観てくださる皆さんの心に届くように頑張って語り、演じます。